

風土記の丘の花だより 187

今、そしてこれから見られる植物（2023年5月27日）

山を歩くと、まさに初夏を感じます。気持ちの良い季節になりました。たまに毛虫やいも虫を見かけますが、それらは小鳥たちの食糧となり、糞は草木の栄養になります。生態系において、なくてはならない存在なのです。いたずらに殺生はしないでくださいね。



ハルジオンの花が少なくなり、かわりにヒメジョオンが咲き始めました。ヒメジョオンは江戸から明治になるころに、北アメリカから渡来した代表的な外来植物です。でももうすでに日本の初夏を彩る花として日本の風土にすっかり溶け込んでしまっています。ハルジオンが春だけなのに対して、これは秋の終わりまでずっと咲き続けます。比較的大型の雑草なので、厄介者扱いされることの多い草ですが、花はとてもかわいいですよ。抜いてしまう前に、しばし鑑賞してみてくださいはいかがでしょう。



コマツヨイグサの黄色い花が咲いています。マツヨイとは「待つ宵」のことで夜になるのを待っているという意味です。マツヨイグサの小型ということですが、それとは似ても似つかぬ姿です。この草はマツヨイグサのように直立せず、地面を這います。夜に咲くので、日が上がると閉じてしまいます。これは9時半頃に撮影したので、すでに半分ほど閉じています。風土記にはこの仲間が少なく、黄色い花で、細長く縮れた葉がついていれば、おそらくこの草でしょう。



次も同じく黄色いですが、とても小さい花です。イヌガラシの花です。イヌは「人の役に立たない」という意味で、カラシは香辛料のからしのことです。アブラナ科の植物には「なんとかガラシ」と付くものが多いですが、この種をかじってみるとたしかに辛いです。ですからイヌガラシは「辛いことは辛いけど、余りに小さすぎて、食用のからしとして使えないからし」という意味なのでしょう。写真の細長い実の中に小さな種が入っています。熟したら、かじって味を確かめてみるというのはいかがでしょうか。



最後はイネ科のカモガヤです。穂がボコボコしているように見えます。今ちょうど花が咲いていますが、この花粉が花粉症の原因にもなっているようです。よく耳鼻咽喉科の待合室に張っていますね。ご覧になったことないですか？今回、上のイヌガラシ以外は全部外来植物ですが、これは明治時代にアメリカから牧草として持ち込まれ、全国に広がったものです。イネ科の外来植物には牧草由来のものが少なくないようです。おかげでおいしい肉が食べられるのかな？ 松下